

◆団体基本情報

No.	12	種別	財団法人	団体名	一般財団法人みやぎ産業交流センター		
所在地	〒983 - 0001 仙台市宮城野区港三丁目1番7号						
電話番号	022 - 254 - 7111	FAX番号	022 - 254 - 7110		所管 部局	経済局 企業立地課	
団体ホームページ	http://www.yumemesse.or.jp						
代表者職氏名	理事長 山口 浩徳			設立年月日	平成6年8月1日		
資本金・基本財産	1,779,000 千円	市の出捐額(割合)	450,000 千円 (25.3 %)				
設立目的	国際見本市その他の見本市、展示会、会議、イベント、大会等の開催及び支援等に関する事業を行うことにより、宮城県の産業振興、地域経済の発展に寄与することを目的とする						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・見本市、展示会、会議、イベント等の企画、誘致、開催及び協力 ・みやぎ産業交流センターの指定管理事業 ・その他 						
評価対象決算期	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
②常勤役員平均年齢	61.5 歳	62.5 歳	63.5 歳
③常勤役員平均年間報酬	7,194 千円	7,175 千円	7,179 千円
④職員数	10 人	9 人	9 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	47.6 歳	46.3 歳	47.2 歳
⑥職員平均年間給与	5,487 千円	5,720 千円	5,540 千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	6,764 千円	△ 11,385 千円	47,094 千円
②当期経常外増減額	△ 1,517 千円	△ 1,529 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	5,174 千円	△ 12,987 千円	46,982 千円
④一般正味財産期末残高	556,196 千円	543,210 千円	590,192 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,779,000 千円	1,779,000 千円	1,779,000 千円
⑥正味財産期末残高	2,335,196 千円	2,322,210 千円	2,369,192 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
展示会開催事業	展示会の主催・共催・協賛等	5,351 千円
展示会出展支援事業	展示会への出展に係る助成金の交付	909 千円
展示会活用促進事業	展示会に関する講演会・セミナー等の開催	95 千円
展示施設等改良事業	指定管理施設の改良	9,900 千円
施設運営管理事業	みやぎ産業交流センターの指定管理事業	358,818 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、イベント等開催件数や稼働率は減少したが、徐々にイベント等開催件数は回復してきている。また、主催・共催イベントも多くが中止となったものの、開催に向けた検討も進められており、今後もこれらイベントの再開をしていくことにより、産業振興や交流人口の増加に寄与していく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、（公財）仙台観光国際協会等との連携を図り、公益性の高い事業により一層注力いただきたい。</p>
2. 業務・組織管理	<p>これまでの管理運営の経験や成果をこれからも事業に着実に反映させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、コンソーシアム各社の協力を得ながら施設利用促進を図った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、これまでの管理運営の経験を基に、より一層の効率的な組織運営をしていただくとともに、コンソーシアム各社の協力を得て施設の利用促進を図っていただきたい。</p>
3. 財務状況	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、予定していたイベント等の半数以上が中止となったため、事業収益は対前年比で大幅に減少したが、県から交付金を受け収支は黒字となった。今年度も厳しい状況は続くと思われが、新型コロナウイルス感染症の状況好転を期して、イベントの誘致活動の継続や運営コストの低減に取り組んでいく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による収益の減少を的確に想定し、効率的な事業運営により、健全な財務状況を維持していただきたい。</p>
4. 今後の方向性及び課題	<p>今後も厳しい状況は続くと思われるが、財団設立目的のための事業の充実及び堅実な財政運営と公益目的支出の確実に実施していく。併せて、新型コロナウイルス感染症拡大防止によるさまざまな規制等に対応しながら、本館・西館の一体的管理運営により、これまで以上に収益性や効率性を意識した運営を推進して行く。</p>	<p>引き続き公共性の高い展示会の開催・支援事業の注力及び効率的な事業運営を展開していただくとともに、コロナ禍における適切な運営を実施していただきたい。</p>